

「知的財産推進計画2018」に盛り込むべき要素（コンテンツ関係）

## ○コンテンツの持続的なクリエイション・エコシステムの確立

（現状・課題）

- ・マンガ、アニメ、映画、音楽、ゲーム、放送番組などのコンテンツは、クールジャパン戦略をけん引する要素であり、対日理解促進においても不可欠なものであるため、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、国内外においてその波及効果を最大化することが必要。
- ・ローカライズやプロモーションを支援するJ-LOP事業や、放送コンテンツ海外展開事業及び海外における日本映画祭の継続的な実施など、コンテンツ産業の海外展開を推進する政府の施策は着実に成果を挙げてきている。国境をまたいだコンテンツ制作にはノウハウ蓄積、異文化理解、協業相手との信頼関係構築が肝要であり、継続した中長期の取り組みが必要。
- ・海外展開の深化には、「モノ」から「コト・サービス」へと移りつつある消費動向や5G通信の整備等の技術革新、通信環境の変化を捉えた戦略が必要であり、異業種との連携を含めた面的展開の取り組みを支援していく事も必要。
- ・コンテンツ産業の持続的発展のため、クリエイター等の制作環境の整備が必要であり、クリエイター等が新たな手法で資金調達を行い、作品を流通させる試みを支援することが必要。
- ・ブロックチェーン技術等の新技術を活用した著作物の管理・利益配分の仕組み構築により、クリエイターが対価を得やすい環境整備や死蔵されている著作物の価値の最大化を促すことが必要。

（主な施策の方向性）

- クラウドファンディング等による新たな資金調達を活用するコンテンツ企画制作や海外プロモーションの取り組み支援
- 異業種との連携推進
- 海賊版に対抗しうる世界同時展開の取り組み支援
- ブロックチェーン等を活用した利益配分・使用許諾の仕組み構築の支援

### これまでの会合で出た主なご意見

- ・海外の事業者との共同制作における知見の蓄積が、制作方法の効率化や技術を用いた新しい制作手法を生み出す上で役立っている。
- ・海外展開は目標を定めて継続して取り組むことが大切。P D C Aのサイクルをマネジメントしながらステップアップしていくことが重要。
- ・デジタルの世界では環境の変化が非常に大きい。プレイヤーもダイナミックに変わっていく。その変化を整理するべき。

- ・海外市場での展開は紙やテレビではなく配信が中心になっている。だが、日本では一緒に海外に出ていくプラットフォームがない。
- ・アニメ、ゲームといったジャンル別のコンテンツ輸出を考える時代はもう終わっていると思う。ジャンルを超えて、一緒になって海外展開をしていく必要がある。
- ・ASEAN地域のショッピングモールは画一的になってきており、体験型のテナントを誘致しようという動きが顕在化している。その変化をうまく活用したい。
- ・日本ではeスポーツがものすごく遅れている。ゲームの最先端を走っていたはずなので、アメリカや中国のゲーム会社に対して不利にならないように検討してほしい。
- ・10年後もスマートフォンが主力デバイスであるとは考えにくい。ポストスマートフォンを探すアクションがほしい。

## ○ロケ撮影の環境改善

(現状・課題)

- ・「知財推進計画 2017」を受けて、今年度、我が国映像コンテンツの魅力の促進を図るため、「ロケ撮影の環境改善に関する連絡会議」を実施。ロケ撮影に関係の深い許認可手続に関する情報共有に加えて、先進的な取組を行うフィルムコミッションからのヒアリングを通じた優良事例の整理、海外の大型作品誘致に関する関連制度・経済効果の調査等を実施。
- ・許認可の円滑な取得にあたっては、許認可取得にあたってのプロセスの理解の浸透、撮影許可内容の遵守、ロケ地マップ等地域への貢献による地域全体の盛り上がり等が課題であることが明確となっており、こうした好循環のスパイラルを創出するためにも、各法令の一元的な情報共有の仕組みを作るなどの工夫が必要。
- ・海外作品誘致については、許認可の円滑な取得のほか、大型作品誘致のためのインセンティブの導入、受け入れ環境の整備（対応できる受託業者、フィルムコミッションの体制）、海外へのプロモーション強化などの課題が明らかになっており、これらの課題について引き続き検討していくことが必要。

(主な施策の方向性)

- ロケ撮影に関係の深い許認可に係る最新情報の共有及び許認可取得にあたっての優良事例の整理・ノウハウの共有化を進め、官民によるロケーション支援のあり方についてまとめる。
- 海外の大型作品誘致に関して、海外作品誘致強化の方策を検討。

#### これまでの会合で出た主なご意見

- ・ロケをやる場合には交通を遮断しても構わないというような場所を設けてほしい。
- ・(クールジャパンとして) 一番インパクトが強いのは、日本の都心が舞台になっている映像が頻繁に流れることだと思う。

#### ○模倣品・海賊版対策

(現状・課題)

- ・悪質な巨大侵害コンテンツ配信サイトやリーチサイトによる若年層を中心とした海賊版へのアクセスの急増、国境を越えて先鋭化・巧妙化する知財侵害が急速に拡大。
- ・コンテンツ産業の基盤強化のため、厳格な取締りを継続するばかりでなく、模倣品・海賊版対策の強化について、政府一体となった対策を講じる必要がある。

(主な施策の方向性)

- インターネット上で流通する模倣品・海賊版対策を含むコンテンツの海外展開策について、有識者及び関係府省による総合的な検討を加速。

#### これまでの会合で出た主なご意見

- ・各コンテンツ業界における危機的ともいふべき被害状況、対策が極めて困難な侵害実態、法制化によらない迅速なサイトブロッキング導入が必要ではないか。
- ・緊急事態への対応という観点でスピード最優先の複合的かつ多角的な対策内容を決めていくべき。

#### ○クールジャパン人材の育成・集積に係る取組 (P)

#### ○知財ビジョンを踏まえたクールジャパン戦略の持続的強化 (P)

#### ○デジタルアーカイブ社会の実現

(現状・課題)

- ・デジタルアーカイブの構築・利活用について、デジタルアーカイブジャパン推進委員会を立ち上げ、様々な分野におけるデジタルアーカイブ構築の取組について工程表を決定するとともに、デジタルアーカイブ推進に係る実務的課題に対応するため、実務者検討委員会を設置。実務者検討委員会において、関係施策等の取組状況につ

いて整理するとともに、デジタルアーカイブ構築・利活用に係る課題への対応策などについて議論を実施。

- ・2020年に予定されている統合ポータル「ジャパン・サーチ（仮称）」の立ち上げに向けた準備を進めるとともに、デジタルアーカイブの構築や新たな利活用策の検討を進めるため、関係省庁・機関による工程表に沿った取組を着実に進めるとともに、産学官協力による社会全体でのデジタルアーカイブ構築・利活用の取組を進めていくことが必要。

（主な施策の方向性）

- ジャパン・サーチ（仮称）充実のため、データ提供機関（つなぎ役）として、公文書分野、自然史・理工学分野、人文学分野などの主要機関との連携を推進。
- ジャパン・サーチ（仮称）の普及・利用促進を効果的なものとするため、年度内を目途に試験公開版を公開するとともに広報・説明イベントを実施。
- 関係省庁と連携しながら、デジタルアーカイブの利活用モデルの検討や各分野・地域におけるつなぎ役の役割の明確化、つなぎ役への国の支援の在り方について検討。
- ジャパン・サーチ（仮称）における分野横断の標準（共通）メタデータフォーマットを参照しつつ、各分野における標準メタデータの在り方について検討。メタデータの整備を推進する施策を検討。
- メタデータのオープン化やデジタルコンテンツの二次利用条件の表示を促進する施策を検討。

#### これまでの会合で出た主なご意見

- ・デジタルアーカイブは AIのインフラになると考えている。
- ・情報化時代に適したデジタルアーカイブの在り方・利便性を考えていただきたい。